



テイカカズラ (定家葛) <キョウチクトウ科・テイカカズラ属>

つる性常緑低木。本州から沖縄に自生。付着痕を出して樹幹や岩に張り付いてよじ登る。葉は対生で葉身は長さ5~10㎝、革質で光沢のある鮮やかな緑色。花は初夏、枝先にキョウチクトウに似た直径約2㎝の白い花を咲かせる。花には芳香があり白から淡黄色に変化する。秋には、長さ15~25㎝の豆のさやのような果実が対になって付く。種子には冠毛があり風に乗って飛ぶ。名の由来は、皇女しよくしなしいあんのう式子内親王を愛した藤原定家が、彼女の死後も忘れられず、その墓に蔓となってからみついたという悲恋伝説に因む。・・・▼良い香りに誘われ、目をあげると垣根越しにテイカカズラ。雰囲気のある姿にしばし見とれる。が、有毒。▼今、里山は美しい季節を迎えている。風にそよぎ波打つのは、豊かに育った田んぼの稲。ネムノキは、枝先一杯に桃色の花を咲かせ香りを放つ。夜には蛍が飛び交い、足元にはネジバナ。たくさんの自然の宝がすぐそばに。 ~2022年6月湯来町~